

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801073		
法人名	医療法人 翌檜会		
事業所名	グループホーム「ばらいろ」	ユニット名	1ユニット
所在地	福岡市東区名子1-1-5		
自己評価作成日	平成31年1月10日	評価結果市町村受理日	平成31年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	平成31年2月4日	評価確定日	平成31年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的雰囲気の中で入居者が落ち着いて生活できるよう支援しています。周りに緑が沢山あり、のどかな所です。庭には、季節のお花が咲き、みかんやキンカンも沢山実ります。みんなで毎年収穫祭を行い、みかんは食べ、キンカンは砂糖づけして食べています。毎月保育園児の慰問もあり、みんなで楽しく笑って過ごしています。これからも笑顔いっぱいのホームを目指していきます！

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福岡市東区名子にある「グループホーム「ばらいろ」」は、「医療法人 翌檜会」が運営している。ホームの2～3階は老健、併設施設にはデイケアもあり、法人全体で研修なども行われ、母体のクリニックの医師も含めて協力体制ができています。家族との話し合いも密に行われ、管理者、ケアマネ、看護師などと一緒に担当者会議が行われている。残存機能の維持・向上の検討や、看護面での留意点等も共有し、法人のPTとOTの訪問も毎月あり、評価やアドバイスを頂いている。法人の理念の中に、「入居者や利用する方々が、生きること意義と喜びを見出せるよう援助する。～生きることは楽しむこと いつもばらいろ～」等の表現もあり、日々笑顔で楽しく過ごせるように努めており、管理者と職員が結束し、家族のご協力も頂きながら日々の生活支援が行われている。地域交流も深めてこられ、ピアノのボランティアの方が来られた時は、職員もハンドベルで参加したり、保育園児の訪問も毎月あり、楽しいひと時を過ごされている。今後も更なる社会貢献の在り方や災害対策等を検討していく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	つなげていけるようにしている。	新人職員にも理念を伝えている。地域密着型サービスとして「地域に開かれた施設を目指す」と言う理念もあり、保育園児との交流などを楽しまれている。「各職種の専門性、人間性の向上」も目指しており、法人全体で研修や委員会活動、会議なども行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外に散歩へ出掛ける際は挨拶を欠かさない。	空き缶拾いや草むしりに職員が参加している。地域の餅つき会に入居者とお手伝いに行かれたり、公民館祭り(29年)では入居者の作品を展示して頂いた。保育園児の訪問も毎月あり、併設施設と一緒に秋祭りには地域の方をご招待しており、ブラスバンドやオカリヤ演奏等も楽しまれている。	31年は法人開設20周年を迎える。法人全体で地域貢献の在り方を検討しており、今後も地域の方に遊びに来て頂けるよう、ホーム内の見学会(説明会)などを検討していく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていけるようにしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。	参加しやすい時間の検討を続けている。30年は午前中に会議を行い、ホームの食事(そうめん流しや焼きサンマなど)も体験して頂いている。会議ではホーム行事(保育園児との交流やドライブ、花見等)の写真を掲載した新聞を見て頂き、活動報告等も行われ、地域情報も頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困った事や、分からない事があれば電話で相談したり直接行って話をしている。	運営推進会議では地域包括の方から振り込め詐欺や熱中症予防、制度改正等の情報を頂いている。疑問点や課題は随時相談し、ホームの現状を理解して頂いている。別のホームの会議にも参加し、地域包括の方と情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。例えば何か事例があれば便利カンファを行い検討していく。	法人全体で身体拘束廃止委員会を毎月行い、年2回以上の勉強会も継続している。日中、玄関は開錠しており、見守り等を強化すると共に、玄関にセンサー等を設置している。行動障害が見られる時は原因を把握し、ご本人が少しでも安心できる方法を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修に参加したり防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内勉強会に参加し、支援している。	職員は権利擁護の研修(内部・外部)を受けている。契約書に制度の記載があり、管理者が入居時に説明している。制度を利用している方もおられ、後見人との情報交換を続けている。家族状況に応じて、悩みや心配事の相談に応じると共に、家族同士で話し合う機会も作って頂いている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、運営推進会議後に話をする機会を設けている。	面会時や電話、家族会(年1回)等で家族の要望を伺っている。面会頻度が多い家族も多く、管理者等が暮らしぶりや健康状態を報告し、心配事などを伺っている。職員の「笑顔で挨拶」も好評で、新聞も喜ばれている。入居者会議も毎月行われ、入浴や散歩の順番等を話し合いで決めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	実施できている。	「独歩で笑顔で入居」を原則に、少しでも残存能力を維持し、終末期まで過ごして頂けるように努めている。入居の受け入れや次年度の目標等、管理者の提案内容に基づき、職員個々の意見も確認しており、会議で採用した意見(ケア内容)は1ヶ月実施し、更なる検討を続けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	実施できている。	事務長と管理者が面接しており、採用時は初任者研修修了者で、優しさや笑顔、目の生き生き度を大切にされている。勤務希望や研修希望等も伺い、職員個々の能力(家事全般ができる、対応が優しい)等の発揮と共に、必要に応じて老健でのケア体験なども行われている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	取り組んでいる。	「利用者を尊重し、個々に適したサービスを提供する…」という理念を共有しており、ご本人の寂しさや不安など、行動障害の背景に向き合うように努めている。管理者は“言葉遣い”に厳しく、必要に応じて職員に注意している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り研修に参加できるよう努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの運営推進会議に参加したり、してもらったりとネットワーク作りに取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いていけるよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。	センター方式を活用し、生活歴を把握しており、家族と仏壇参りやお墓参り、馴染みの美容室に行かれている。踊りの元師匠が訪問して下さったり、ご本人の愛犬をホームに連れてきて下さる家族もおられる。ご本人の要望を日々伺っており、家族に直接伝達できるようにサポートする場合もある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談などがあれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行っている。	入居前から、管理者とケアマネが主にアセスメントしており、担当職員も日々ご本人の生活歴などを把握し、生活歴や趣味、要望などをセンター方式に記入している。意思疎通が難しい方も、表情やしぐさから思いを汲み取るようにしており、家族からも教えて頂いている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している。ご家族、本人の意見を取り込んでいる。	ミーティングでケアの振り返りをしている。主治医や看護師、PT等から医療面のアドバイスを頂き、食事や排泄、入浴等の支援内容を盛り込むと共に、「洗濯物たたみ」「散歩」「ドライブ」等の役割や楽しみも記入している。実施状況もチェックし、日々の記録などと共に家族に見て頂いている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行っている。こまめに記録するよう指導している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	協力医療機関(月2回)と歯科医師の往診があり、系列のPT・OT(月1回)や管理栄養士からのアドバイスも頂いている。職員の観察力も深く、異常の早期発見に繋げている。受診時は管理者や看護師が同行し、必要に応じて家族も一緒に医師の説明を聞いて頂いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ている。支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーさんと密に連絡を取ったり1週間に1回面会に行って状態を確認している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	何度もカンファレンスを行い十分に家族へ説明しみんなで支援に取り組んでいる。	ご本人や家族に、重度化した場合の意向確認を行い、同意書を頂いている。24時間体制で主治医から指示を頂く事ができ、急変時の対応も迅速に行われている。緊急時は管理者や看護師が駆け付ける体制があり、老健の看護師との連携もできている。30年4月にホームで初めての看取りケアが行われ、最期まで誠心誠意のケアが行われた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	8月に事業所全体でBLSを学んだりして備えている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	まだまだである。今後築いていきたい。	老健とホーム含めて夜勤者は6名で、老健等と合同で訓練をしている。28年度は消防署と訓練が行われ、それ以降も消防署の訪問時(年1回)にアドバイスを頂いている。水と常備食、非常持ち出しリュックを準備し、夜勤者は首から防犯コールを下げ、警備会社に通報でき、玄関等に防犯カメラも設置している。	自主訓練(年4回)や地震の訓練も行われ、災害時は地域の避難場所になる予定もある。今後は近隣の別法人の事業所と合同で訓練を行う事も検討されており、運営推進会議等で消防署も一緒に訓練を行う方法を検討予定である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に指導している。	「丁寧な言葉遣いと丁寧な態度」と言う言葉を事務所に掲示し、言葉遣いに配慮している。入居者個々に触れて欲しくない話題があり、会話の時に配慮している。職員は申し送り時の声の大きさ等に注意し、インシャルで申し送りをを行い、法人研修で個人情報の管理の指導を徹底している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	実施できている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている。	併設施設で調理しているが、職員や家族からの差し入れ(野菜、果物)等や、畑の紫蘇や豆を使って季節の料理を追加する事も多く、盛り付けの彩りにも配慮している。入居者も筍とフキの皮むきや下膳、食器拭き等をして下さり、誕生日には手作りのケーキが作られている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別対応を行っている。	入居者個々の排泄パターンを記録し、羞恥心の配慮や安全面を考えたケア内容を検討している。希望に応じた個別支援が行われ、排泄が自立している方もおられるが、排便確認などはさせて頂いている。おむつが必要な方も適宜交換や保清を行い、褥瘡も無く、過ごされている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトを食べたり毎朝牛乳を飲んで予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	支援している。	午前中は活動時間にされており、午後入浴されている。湯温の希望を伺い、愛用のシャワーを使用する方もおられる。職員との会話を楽しまれ、歌も聞かれており、柚子湯も楽しまれている。安全面に配慮し、浴槽には回転用の座椅子を設置しており、老健の人工温泉も楽しまれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行っている。常に楽しいことを探して行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り支援している。	入居者と庭で金柑狩りやピーナッツ狩り等を楽しまれたり、散歩を楽しまれている。久山の案山子見学、ペイサイトや空港で大型船や飛行機見学と共に、宮若市の門松見学も恒例で、「大きいね」と感動されていた。山賊屋や久山のお寿司屋での外食時は、入居者の希望の物を事前に注文し、お店に到着時にすぐに食べられるようにしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に季節を感じられるように空間作りをしている。	居間はカーテンを開け、外が見えるようにしており、掃除や換気も徹底している。廊下には保育園児の似顔絵や行事の写真、園児と一緒に作られた作品が貼られており、写真を見ながら昔の事を話したり、廊下のソファーに座って会話を楽しまれている。廊下の奥のソファーコーナーには、グッピーやめだかが泳いでおり、癒しになっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下ソファーでみんなで話せる場作りを行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫しているがご家族の都合で家具を持ってこられないかたもいる。	家族の写真や絵画等が飾られ、タンスや籐の椅子、テレビ、冷蔵庫等もあり、家族が冷蔵庫にジュース等を補充されている。仏壇等も持ち込まれ、水をお供えしたり、お参りされており、ご自分で居室の掃除をされる方もおられる。入居時に、ご本人や家族に好みの壁紙を選んで頂ける場合もある。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				